

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

討議年月日: 令和2年12月16日

公表: 令和2年12月20日

事業所名 合同会社くくくどもサポート

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動に合わせて環境を設定している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		個々への対応を優先して配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		施設内はバリアフリーであり、怪我の無いようにマットを敷いている。	玄関の段差については対応を検討する必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		個別支援計画を作成し、ケース会議を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		アンケート調査は今回が初めてなので、今後につなげるための話し合いを行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価を行いたいとは思っているが、具体的な動きには繋がっていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修等に参加している。	職員の研修については、今後機会があれば参加したいと考えている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に保護者と面接し、想いをうかがっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		現在SSTを中心に活動プログラムを組んでいる。	職員は研修会になるべく多く参加して、技術の向上を目指していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			活動プログラムは製作と運動遊び等を日替わりで取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間に合わせて活動を組んでいる。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		週2、3回は集団活動を取り入れている。	こどもの社会性を向上させるために、今後も計画的に活動を設定していきたいと考えている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員会議にて情報共有している。	職員間で気を付けないといけない事は、必ず情報共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	業務日報の記入を行っている。	職員間で翌日に前日の振り返りをし、当日の業務に反映させている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日報の記入を行っている。	職員は個々の連絡ノートを使い、日々あった事を細かく保護者に伝えている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		カンファレンスにて検討会議を行っている。	相談支援事業所等と細かく連絡を取って、多くの意見をうかがっている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○		基本的な事は把握しているが、今後ガイドラインを把握していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		参画できている。	会議は新型コロナウイルスの影響で企画されない場合は、文書で参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との情報共有は常に行っている。	職員は送迎時に先生と話し、学校や子どもの情報を共有している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		経験がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			弊社は児童発達支援事業所を併設している。他市の発達センターとの連携を積極的に行っていく必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		経験がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		児童発達支援センターと業務内容を確認し、連携を始めた段階であるので、今後も積極的に行っていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		新型コロナウイルスの影響により、交流する機会を失っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			自立支援協議会こども部会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者との連携を取っている。	職員と保護者でこどもの状況は常に把握できるよう努めている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている		○		保護者からの日々の疑問質問には答えているが、ペアレントトレーニングまでの支援を行っていくよう努力していきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に面談を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談の際に行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		新型コロナウイルスの関係で、機会を失っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応窓口を周知している。	職員は送迎時に保護者と話しをすることを、今以上に心掛けていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	外遊び等は保護者に伝えている。	新型コロナウイルスの影響で遠出をしたりする事は控えている。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いには職員間で注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳を使い、毎日情報を交換している。こどもに対しては絵カードを活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		新型コロナウイルスの影響により、交流する機会を失っている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		防犯に関するマニュアルは未作成。緊急時対応マニュアルは保護者に見えやすいところに掲示を検討していく。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		地震に対する訓練を行っている。	今後は火災に対する訓練も取り組んでいく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		事業所内で話し合いは行っているが、今後は外部研修に参加する事を検討している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束の必要があるこどもの対応をした事がない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食物アレルギーのあるこどもについては経験がない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	作成はしていないが、事例は職員間で共有している。	今後は話し合った事をヒヤリハット事例集として共有していきたい。